



海陽
正
報
自
然
大
本



威陽島

抑い威陽島と尸の部のよりり

八子と百余里 地 同裏の地よりり

里よりく雲と志のるそははあを

てくろのひれはわらうの十里

外 山 山と百余里と路と海を唐

金をばりてくさくさく

三平六文のついでにのちあり

いさゝか縁の地と地と

むの日月まじりてな

月とてはこゝろあはら

三平六文のついでにのちあり

丈夫のついでにのちあり

ひらりゆりのがま

おのついでにのちあり

やうりたる日月の光

はらりたる者肝と

いさゝか縁の地と地と

嵐の吹く所は... 雲のゆくえ... 風は人の心...
やあつた... 心... 雲... 風... 人...
未だ... 名... 角... 座... 雲... 風... 人...
た... 雲... 風... 人...
よ... 雲... 風... 人...
の... 雲... 風... 人...
の... 雲... 風... 人...
の... 雲... 風... 人...

...

...

と持てては遠く東國のてのち何事か

多人の國の民よがらう人海を

海人の若き人れううれ若き人

あつたつた人おとく人海を

つたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

あつたつた人おとく人海を

東陽

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

あつたてのあつたてのあつたて

いづれにこそ世にあらば

まじりてはなれぬとぞ

おもひてはなれぬとぞ

片時もあきらめずとぞ

くさくさの道くさくさ

とぞいづれにこそ世に

まじりてはなれぬとぞ

片時もあきらめずとぞ

くさくさの道くさくさ

とぞいづれにこそ世に

まじりてはなれぬとぞ

片時もあきらめずとぞ

真尋

名海

我

家

て

し

る

も

あ

の

こ

あ

い

發

平

わはらひてふ ^テ 只今と独り
さかきかき ^テ 法人の御
えん ^テ 御まき ^テ 御まき ^テ 御まき
梅 ^テ 梅 ^テ 梅 ^テ 梅 ^テ 梅
い ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今
梅 ^テ 梅 ^テ 梅 ^テ 梅 ^テ 梅
あ ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今
か ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今
ふ ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今
我 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今
は ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今 ^テ 只今

只今と独り

母

目録のついでに

此の文がなすはるのれは母

のついでに

年
ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

母

母

糸ひき人くんとはたうせんせんを

有るやひは神と神なり也況念と

粧りしるせん 三行 実しくは神なり

地ふあひんといひださひん今も

乃ふふあひんといふたははるん

くこいふ 異 又あひんは

んといふ 三 実なりやと

らといふ 三 命のあひん 三

らといふ 三 あひん 三 あひん

らといふ 三 あひん 三 あひん

らといふ 三 あひん 三 あひん

らといふ 三 あひん 三 あひん

くさくさ 信約 盛ん 信約

よきより 信約

よび 信約

い 信約

ふ 信約

く 信約

お 信約

る 信約

し 信約

く 信約

つ 信約

ま 信約

よきおれくまのいしにのりまきん

三
名地
まきんのまきんまきんまきんまきん

ひんまつくまのいしにのりまきん

のまひれひらひらひらひらひらひら

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

まらに我いしにのりまきんまきん

かよらり感久らふきくひくひん

吉義

つららりあー

しめびわらうらひし

つららりあー

あー

あー

あー

あー

あー

あー

あー

こもたふりよびきからんぬんかあ

す^五めしなまきこびり小松友かあ

しんきせりりうはは酒のほ酒えん

おろく^五あめし感久し^五あましく

のろからんかきあまのさあ

い流いのちりあまのさあ

かりいそひくはりあましく

えんいん河さり難さあ

久うあまのよあまのさあ

あまのさああまのさあ

あまのさああまのさあ

あまのさああまのさあ

おまのきりくくろいぬ月影のさかえ
君といふ子枝のほろくおりのねし
のらりやひしくよ本ののろくあり
わがわがしあがらめわわあそいあはれ
くらげほろまらるるあやのしんか
あかあけりららるるあやのしんか

玉音

曲出本指子
泣程口傳立

玉音

先、法國一見れ僧を
まはねのあんなにひひくま
あひまいしやあはれなくあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれあはれ

糸のつたてのきりぎりすのうた

えりあひのきりぎりすのうた

わがまのきりぎりすのうた

ふたりのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

あつちのきりぎりすのうた

Handwritten text in a cursive style, possibly a musical score or a form of shorthand. The text is written on aged paper with some red markings and is organized into several columns. The characters are highly stylized and difficult to decipher as a standard script.

Small vertical text or signature on the left margin of the left page.

海へは 年上のりぬいのうきとん

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink on aged, yellowish paper. The script is dense and flowing, characteristic of early modern cursive. There are several red ink markings, possibly initials or corrections, scattered throughout the text. The text is arranged in approximately 12 lines across the page.

1581

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

あつたてのうらなひをうらなひ

Handwritten text in red ink at the top of the left page, likely a title or header.

あはれなる御心

甲 御心

御心

普 御心

御心

御心

御心

御心

御心

御心

御心

御心

紅毛の書

今更の神をぬき眼のち

だもてまらう歌くそ長かりの

あやひあまの歌

わきへた歌

くはひのほりふゆん

あやひあまの歌

紅毛の書を部の後

あやひあまの歌

あやひあまの歌

あやひあまの歌

あやひあまの歌

あやひあまの歌

るかに 目し 家ら ぬら ぬら 地の ぬら

や 馬ふ ぞ 眼の 歌お くら ぬら づ 見え

と 着い けい けい ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ま して 林の 風 ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

と ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

請 ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら ぬら

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

右にまはるる人々をうらまへん

さうはくさうさあゆめありな

とほくにやうしむらぎのあはれん

女ふととほさうせいのあはれの

世乃さやく縁今乃ひん女のあやの

さうはくさうさあゆめありな

さうはくさうさあゆめありな

ひしあたふあまをたかひん

さあひあひんじんすまあれ神と

わくさうさあゆめありな

とあさあひんあしぐ

のいん東國さうあまじんをい我

巻

三

いふはむらさきまはるかに

ふくむはむらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

のふ親はむらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

むらさきまはるかに

巻

七

夏が来りて遠立してひの程あつて

うしつらうの用ひつらうの程あつて

き曲したるは始よりその女にあら

よみしてひつらうの程あつて

神さうして身はあつて

ひの程あつて

ひの程あつて

ひの程あつて

ひの程あつて

ひの程あつて

ひの程あつて

ひの程あつて

自注

よからんかきかきまらふく 三十一 新出

かろくし我まうししむ神とおて秘

かぶうししししししししししし

かまら今目まはし説法ししよか

か説法し百回し百回するししし

かししとまうんまらうしし。今の女の

か人の悪く者悪くし乃まはしし

かふふ。まはし説法し是とらうん

かまらしあしあしあしあしあし

か乃まはししあしあし 三十一 隆

かまらし 三十一 甲上 三十一 しししししし

かまらししししししししししし

三十一

じふのくろね法よとるが

うはよるるのうはよる

とちりしつとちりしつ

くちびのうはよるる

果ましくる船

もとのうはよる

のち余とるも

のち余とる

のち余とる

のち余とる

のち余とる

のち余とる

集

十

て都へよりくはまののんあふの舞の
しとひのり及くはくさしをいはなを
のまのまのまの想マてまのひら
舞まのまのまのあまマそれいほ
のまのまのまのまの夜法世の
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまのまのまの

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

育

六

ハカニ入るまゝなりけのりぐりか
子何のりらる雨かしくとさどさの
竹のりらと措池乃氷れさしくと報
又方りらと於措料をさしくと法めら
今ハカニ入る乃片もせりか力用り
ていとうい打進てたに物ふりりり

此本者觀田左近を丈
以章句寫之并加當流
秘密志令改正者也

于時貞享三丙寅年孟春吉辰

寺田直二條上町

寺田与平次新刊



